2018年(平成30年)11月26日 月曜日 秋田さきがけ

(第3種郵便物認可)

秋田の教育 タイでも

バンコクの教員

西仙北小中高 月末まで研修

タイ・バンコクの中高一貫校で教員を務めるウィーダラット・パーントーンさん(43)が、大仙市西仙北地域の小学校、中学校、高校で9月から今月末までの長期研修に励んでいる。小中学生が全国学力テストで好成績を収めている本県の授業スタイルを学び、母国に伝えようと意気込んでいる。

タイ北部チェンマイ出身。バンコクのデーブシリンロムカーオ校で日本語の授業を担当している。来日してからは西仙北小学校、西仙北中学校、西仙北高校の順で1カ月ずつ授業し、英語やタイ文化を教えている。幼い頃からのあだ名である「アップル先生」を名乗り、親しまれている。

今月15日には西仙北高校の2年生のクラスで「コミュニケーション英語」の授業を実施。英語で「先進的な秋田の教育システムを学ぶためタイから来ました」と自己紹介したり、タイの国旗を見せて「何色と何色がありますか?」などと質問したりした。

タイ語の数字の読み方も教え、「ヌン(1)」「ソーン(2)」と声を合わせたほか、服装などの文化も紹介した。ほかのクラスでは家庭科の実習でタイカレーも作った。

タイでは就職や留学に向け、中学校から正規の授業で日本語を学ぶことができる。ウィーダラットさんは英語教員を経て2003年に日本語教員となり、研修などで30回以上来日している。

今回の長期研修は、知人でタイとのビジネスや交流に取り組む大仙市刈和野の会社社長・佐々木正光さん(68)が手引きし、県教育委員会や大仙市教委の協力も得て実現した。

「授業では、秋田の子どもたちが活発に学ぶ姿が印象的。先生たちの教え方も理解しやすい」と語る。児童生徒が議論しながら答えを見つけ出し、授業の終わりに内容を振り返る「探究型授業」をタイに広めたい考えだ。

休日には温泉や登山も楽しむ。「残り少ない研修となったが、タイの未来のため頑張る」と話した。

(佐藤辰)

民族衣装で授業するウィーダラットさん

No. 115